

主題: マタイによる福音書で啓示されているすべてを含むキリスト	
ビジョン 宗教と 相対する	MSG1 生ける星としての天のキリストの今日の、即時的な、生けるビジョン(2:1-12)
	MSG2 医者また花婿としてのキリスト(9:10-13, 15)
経験	MSG3 イエス(神によって与えられた王・救い主の御名)とインマヌエル(人によって呼ばれた王・救い主の御名) (1:21, 23)
目標 建造と戦い	MSG4 手順を経た三一の神の中心としてのキリスト (28:19)
	MSG5 わたしたちに安息を与える方としてのキリスト(11:28-30)
	MSG6 天においても地においても、いっさいの権威を持つ方としてのキリスト(7:29)

1. 生ける星としての天のキリストの今日の、即時的な、生けるビジョン		
キリストは星	生ける星を見いだす	生ける星の複製となる
<p>I. イエスがベツレヘムで生まれた後、星観測者たちは東からエルサレムに着いて、言いました、「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか？わたしたちは彼の星が昇るのを見たので、彼を礼拝しに来ました」(マタイ2:2)。これは民数記第24章17節の成就でした。それは、「<u>一つの星がヤコブから出て来て</u>」と言っています。<u>この星はキリストを指しています</u>：</p> <p>* 星観測者たちは、『彼の星』を見ました。その星は天的なキリストです。</p> <p>* ユダヤ人は、キリストに関する聖書を持っており、彼がどこで生まれるかを知っていました。星観測者はキリストの星を見ました。ユダヤ人は、キリストがどこで生まれるかに関する文字の知識を持っていましたが、東方からのこれらの学者は、<u>彼についての生けるビジョンを受けました</u>。</p> <p>* キリストは一度目に来たとき、公に星として現れましたが、二度目に来るとき、<u>勝利者たちにとって明けの明星</u>となります。他のすべての人たちにとって、キリストは太陽として現れます。</p>	<p>II. マタイ 2:1-12 が啓示しているのは、<u>キリストを見いだすことが生ける事柄であって、単なる聖書の教理的な知識の事柄ではない</u>ということです：</p> <p>* その星は、ユダヤの宗教の中心から遠く離れた、むしろ、異教の地に現れました。</p> <p>* <u>その星は、生ける啓示、ビジョンであって、聖書の古くて死んだ教理的な知識ではありません</u>。</p> <p>* 聖書の知識を持っていても、依然として<u>即時的な、今日の生ける星</u>がわたしたちを導くことを必要とします。</p> <p>* 星観測者たちは「別の道を通って」帰りました</p>	<p>III. キリストに<u>忠信に従う者たちは、輝く生ける星たち</u>であり、彼らは輝く生ける星としてのキリストに従って<u>彼の複製となります</u></p> <p>* 生ける星たちは、キリストの天的で、生きた、今日の、即時的なビジョンに従います</p> <p>* 生ける星たちは、神の民を祝福します</p> <p>* 生ける星たちは、聖書の預言者の言葉を、「<u>暗い所に輝くともし火として、よくよく心にとめており、明けの明星としてのキリストを日ごとに彼らの心に昇らせませす</u></p> <p>* 生ける星たちは、七倍に強化された霊を享受し、また満たされています</p>

2. 医者また花婿としてのキリスト		
キリストは宗教に相対する	医者としてのキリスト	花婿としてのキリスト
<p>I. マタイ福音書は、<u>キリストが宗教に相対していること</u>、キリストに関する事は宗教の外にあることを啓示している:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● キリストが誕生し、見いだされ、推薦され、従われることは、みな宗教の外にあった</li> <li>● 宗教において奇跡的に事を行なおうと考える事は、すべて悪魔の誘惑です</li> <li>● 医者また花婿として、キリストは宗教に相対します</li> <li>● 主イエスは宗教的な伝統を顧みません。彼は内側の実際を顧みます</li> </ul>	<p>II. マタイ第9章10節から13節は、わたしたちは<u>キリストを医者として</u>経験でき、享受できることを示している:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 王国のために彼に従うようにと人々を召すとき、主イエスは裁き主としてでなく、医者として仕えました。裁き主の裁きは義にしたがっていますが、医者のいやしはあわれみと恵みにしたがつています。</li> <li>● キリストはわたしたちをいやし、回復し、生かし、救い、再構成し、新しい天の市民とし、天的な王国を設立しつつあります。</li> <li>● パウロはわたしたちが、信者をいやす医者としてのキリストに対する正しい評価を持つことを助けます:</li> <li>● キリストはわたしたちの医者として、いやす権威を持っています:</li> </ul>	<p>III. マタイによる福音書と啓示録では、<u>キリストは花婿として</u>啓示されています——マタイ9:15. 啓19:7-9:</p> <p>*マタイ25:1、花婿としての主イエスについてのさらなる言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● わたしたちは、主を命の回復のための医者としてだけでなく、彼が共にいるという生ける享受のための花婿として評価すべきです。</li> </ul> <p>*啓19:7-9、花婿としてのキリストを明らかにしています</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主イエスは小羊であり、また花婿です;小羊は贖いのため、花婿は婚姻のためです。</li> <li>● 主は花婿として来つつあり、わたしたちは花嫁として行きつつあります</li> </ul>

3. イエス(神によって与えられた王・救い主の御名)と インマヌエル(人によって呼ばれた王・救い主の御名)	
イエス(神によって与えられた王・救い主の御名)	インマヌエル(人によって呼ばれた王・救い主の御名)
<p>I. 「彼女は男の子を産みます。あなたは彼の名をイエスと呼びなさい。彼は自分の民を、彼らの罪から救うからです」 1:21</p> <p>*「イエス」は、ヘブル語の名前「ヨシュア」と等しいギリシャ語です。</p> <p>*イエスという名には、エホバという名が含まれています。エホバは、「わたしは『わたしはある』である」を意味し、それはエホバが自ら存在し、永遠に存在する永遠の方、過去おり、現在おり、将来、永遠にわたっておられる方であることを示します。</p> <p>*イエスはわたしたちのヨシュア、すなわち、わたしたちを安息の中へともたらす方です。その安息は、わたしたちにとって良き地である彼ご自身です。</p> <p>*主の御名、すなわち彼のパーソンは、すべてを含む複合の霊です</p> <p>*主イエスがヒラデルヒヤの勝利者たちを称賛したのは、彼らが彼の御名を否まなかったからです。</p>	<p>II. 『「見よ、処女が身ごもって男の子を産む。人々は彼の名をインマヌエルと呼ぶ』(インマヌエルは、神われらと共にいますと訳される)」 1:23</p> <p>*イエスは神によって与えられた王・救い主の御名でした。インマヌエルは人によって呼ばれた王・救い主の御名でした。</p> <p>*マタイによる福音書はインマヌエル—<u>肉体と成ってわたしたちと共にいます神</u>—についての書です。</p> <p>*インマヌエルはすべてを含んでいます。実際的なインマヌエルは、実際の霊であり、究極的に完成された三一の神が、わたしたちの霊の中に共におられます。</p> <p>*インマヌエルとしてのキリストと共に生きるために、わたしたちは彼の神聖な臨在の中にいる必要があります。この神聖な臨在は、三一の神の究極的完成である命を与える霊です。</p> <p>*良き地の実際としてのすべてを含むキリストに入り、所有し、享受しようとするなら、主の臨在によってそうしなければなりません。</p> <p>*わたしたちは今やこの大いなるインマヌエルの一部分です。この大いなるインマヌエルは、新天新地の新エルサレムにおいて究極的に完成し、永遠に至ります。</p>

## 4. 手順を経た三一の神の中心としてのキリスト

父と子と聖霊の名の中へとバプテスマされた	手順を経た三一の神の中へとバプテスマされた	キリストが中心です
<p><b>I. 神聖な三一の最も明確な啓示は、マタイ第 28 章 19 節にあります。「だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして」:</b></p> <p><b>*「名の中へと」は、パーソンを示します:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バプテスマとは父と子と聖霊の名(パーソン)の中へと、手順を経た三一の神との有機的な結合の中へと浸し込まれることです。</li> </ul> <p><b>*神は三一です</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 三つのパーソンに対して一つの名があることは真に奥義的であり、神が三一であることを啓示しています</li> </ul>	<p><b>II. わたしたちはキリストにある信者として、手順を経た三一の神の中へとバプテスマされました:</b></p> <p>*マタイ 28:19 は主イエスが復活の中へと入った後に与えられた命令です。復活は、三一の神の手順の完成でした。</p> <p>*三一の神は、手順を経過しました。それは肉体と成ることにおいて開始され、人の生活と十字架を含み、復活中で完成しました。この復活において、三一の神の具体化であるキリストは、命を与える霊と成りました。</p> <p>*この霊は、三一の神の究極的完成であり、信者たちが神聖な三一の中へとバプテスマされるためです。三一の神のパーソンの中へとバプテスマされることは、究極的完成である、すべてを含む、究極的に完成された霊の中へとバプテスマされることです:</p> <p>*三一の神の御名の中へとバプテスマされることは、三一の神との奥義的な結合の中へと入れられること、また神であるすべてをわたしたちの存在の中へと適用することです。</p>	<p><b>III. キリストは、手順を経た三一の神の中心です</b></p> <p>*「手順を経た」は、三一の神が経過した極めて重要な段階を指しています:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天を通して、三一の神は手順を経て究極的に完成されました。</li> <li>* 手順を経て究極的に完成された三一の神は「その霊」です</li> <li>* 啓示録の中の三一の神は、建造する神であり、また建造された神です</li> </ul>

## 5. わたしたちに安息を与える方としてのキリスト

主はわたしたちに安息を与える	キリストは、安息日の安息の実際である
<p><b>I. 「すべて労苦し重荷を負っている者は、わたしに来なさい。そうすれば、わたしはあなたがたに安息を与える。わたしは心の柔和なへりくだった者であるから、わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。なぜなら、わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」—— 11:28-30:</b></p> <p>*この労苦は、律法の戒めや宗教的規定を守ろうと努力する労苦を指すだけでなく、あらゆる働きにおいて成功しようとして奮闘する労苦も指しています。</p> <p>*安息は、律法や宗教の下の、あるいはあらゆる働きや責任の下の労苦と重荷から解放されることを指すだけでなく、完全な平安と全き満足をも指しています。</p> <p>*主のくびきとは御父のみこころであり、彼の荷とは御父のみこころを遂行する働きです。このようなくびきは負いやすく、そのような荷は軽いのです。</p> <p>*主のくびき(御父のみこころ)を負い、彼から学べば、わたしたちの魂に安息を見いだします。</p>	<p><b>II. 神の住まいの建造に関する長い記載の後、出エジプト記第 31 章 12 節から 17 節で、安息日を守る戒めが繰り返されています。コロサイ第 2 章 16 節から 17 節によれば、キリストは、安息日の安息の実際です。キリストは、わたしたちの完全さ、安息、平穩、完全な満足です</b></p> <p>*幕屋を建造する働きの命令の後に、安息日に関する言葉が挿入されています。これが示すのは、建造する者たち、働く者たちが主のために働くとき、どのように主と共に安息するかを学ぶよう、主が彼らに告げたということです。</p> <p>*もしわたしたちが、どのように主のために働くかを知っているだけで、どのように彼と共に安息するかを知らないなら、神聖な原則に反して行動しています:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神が第七日に安息したのは、彼がご自身の働きを終えて満足したからです。</li> <li>・人は創造された後、神の働きに加わったのではなく、神の安息の中へと入りました。</li> <li>・わたしたちは彼と共に、また彼に対して満ち満ちた享受を持った後に、彼と共に働くことができます。</li> <li>・神がわたしたちの享受となっていたことを示す、しるしをしるしを帯びている必要があります。</li> </ul>

## 6. 天においても地においても、いっさいの権威を持つ方としてのキリスト

認識: 神は最高の権威である	権威と反逆	適用
<p><b>I. わたしたちは「権威」についての定義を持つ必要があります</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 命令を発し、決定し、服従を強いる権力または権利であり、しばしば権力の地位あるいは専門知識から生じるものです</li> <li>* 権力を行使する道徳上の権利であり、究極的には神から来るもの、また神を起源とするものです</li> </ul>	<p><b>Ⅲ. 宇宙には二つの大きな原則があります。それは、<u>神の権威とサタン</u>の反逆です。神とサタンとの間の唯一の争いは、権威と関係があります</b></p>	<p><b>IV. 権威(代理権威)をもって神を代行する人は、以下の資格を持たなければなりません:</b></p>
<p><b>II. 神は最高の権威です。彼はすべての権威を持っています</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 神の権威は、実は神ご自身です。権威は、神ご自身の存在から出て来ます。神の権威に触れるとき、神ご自身に触れます。権威に触れること以上に重要なことはありません。</li> <li>* 神だけが、人に対する直接的な権威です。他のすべての権威は、間接的な権威、すなわち、神によって立てられた代理権威です</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 反逆は、神の権威を否定することであり、また神の支配を拒絶することです:</li> <li>* サタンは神の権威に反逆し、また人は神に反逆することによって神の権威を侵しましたが、神はこの反逆を継続させません。神は地上にご自身の王国を設立します。</li> <li>* 宇宙における争いの中心は、だれが権威を持っているかということです。</li> </ul>	<p><b>V. 最も重要な祈り、また最も霊的な祈りは、権威の祈りです</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 権威の祈りは: (1) 権威に基づいた命令である (2) 二つの面がある一縛ることと解くこと (3) 神に向ってではなく、「この山」に向けられた祈りである。</li> <li>* 権威の祈りをしようとするなら、まずわたしたち自身が神の権威に服従しなければなりません</li> <li>* 昇天の地位と権威を持ち、権威の祈りを発するとき、御座におり、主と共に支配します</li> </ul>